

豊高SGH フェアトレード班 通信

2015年
6月16日
第10号

フェアトレードとは途上国の生産者に対して等なパートナーとし適正な価格で継続的に取引してフェア（公正）なトレード（貿易）をめざす取り組み。

シサム工房訪問

6月十五日の課題研究は学校を離れて、森ノ宮のキューズモールに出店しているフェアトレードショップ「シサム工房」の見学に行きました。五時間目終了後十一名（付き添い伊田・志方）が正門に集合して、バス・阪急・JRを乗り継いで三時過ぎに到着。キューズモールは三階にジョギングコースのあるショッピングモールで若い家族向けの自然志向感覚の店がそろっていました。シサム工房もその一つでした。

フェアトレードショップということでもっとエスニックな店を想像していたのですが予想が外れました。生徒からも「普通の店やね」という声が聞こえました。おしゃれな雑貨店という感じですよ。

最初十五分ほど店の中を見学したあと、店長の小林さんの話を聞きました。

（小林さんは、先週講演に来てもらった関学の武田先生の教え子です。）中庭の人工芝に車座になっていろいろ教えてもらいました。

小林さんがフェアトレードを意識したきっかけは、大学時代に行ったフィリピンのゴミの山（スモークマウンテン）の体験だそう。ゴミ拾いなどの児童労働や低賃金労働の現実を知って私も何かしないと！という使命感を感じたそうです。（フェアトレードにせよ何にせよ、なぜ必要なのかという根本をしつかり意識してほしいとのことでした。）自分のほんとうにやりたいことをするため、シサム工房に就職されたそうです。



店を運営していく上で思うことについて、うかがいしました。フェアトレードというのはもはや後付で、よい商品を顧客に提供することが最も大切とのことでした。お客さんに繰り返して来てもらった会社を存続させなければ（フェアトレードを）継続していくことができないからです。お客さんの九割はここがフェアトレードショップとは知らないそうです。支払いの時レジで説明すると喜んでもらえることが多いとか。

一通り話してもらったあと、生徒からの質問に答えてもらいました。
☆フェアトレードを周知する活動はどのようにしてやっているのか。
☆アクセサリーの原料でゴミから再利用したものがあるのか。

☆ネパールの商品があるが地震の影響があったのか。（募金がたくさん集まったそうです）
☆食べ物などは扱っているのか。
☆イギリスではフェアトレードが盛んだがなぜか。

☆フェアトレードをやっている感じることとは。
☆店をやっている良かったと思うことは。
☆古い家具も売っているが、売れるものは誰が決めているのか。

☆苦勞している店はあるか。（円安だそう）
☆開店するときどんな苦勞があったか。
☆苦情などはどのように対応しているのか。

☆文化祭でどのような取り組みができるか。
四時過ぎまで一時間以上にわたって、いろいろ聞かせてもらいました。質問にも丁寧に答えてもらいました。美りの多い時間であったと思います。終わりに記念写真撮って解散しましたが居残った他の店で大きなクレープを食べている人もいました。

（感想は次号）